

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名 地域高規格道路 <small>こうべにし</small> 一般国道2号 神戸西バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 近畿地方整備局	
起終点 自： <small>ひょうごけんこうべしたるみくみょうだにまち</small> 兵庫県神戸市垂水区名谷町 至： <small>ひょうごけんあかししおおくぼまち</small> 兵庫県明石市大久保町	延長 専用部：12.5km 一般部：8.4km		
事業概要 神戸西バイパスは、関西と九州・四国を結ぶ東西交通の拠点であり、交通混雑が著しい神戸西部地域において、沿線開発や本州四国連絡道路に伴う自動車交通の需要増加に対応するため、第二神明道路（有料）のバイパスとして計画された道路です。 このバイパスは、第二神明道路と東西の広域交通を分担し、臨海部での交通の流れをよくするとともに、明石海峡大橋とその関連道路へのアクセス道路として機能します。			
S 6 3 年度事業化	S 6 2 年度都市計画決定 (H 1 1 年度変更)	H 元 年度用地着手	H 3 年度工事着手
全体事業費 1,900億円		事業進捗率 70%	供用済延長 専用部：5.6km 一般部：4.4km
計画交通量 専用部34,500台/日 一般部16,100台/日			
費用対効果分析結果	B/C <small>(事業全体)</small> 1.6 <small>(残事業)</small> 5.4	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 497/2,559億円 事業費 ：442/2,457億円 維持管理費 ：54/102億円	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 2,679/4,056億円 走行時間短縮便益 ：2,605/3,896億円 走行費用減少便益 ：55/122億円 交通事故減少便益 ：18/37億円
基準年 平成19年			
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=4.9（交通量-10%） B/C=5.9（交通量+10%） 事業費変動：B/C=4.9（事業費+10%） B/C=5.9（事業費-10%）			
事業の効果等 円滑なモビリティの確保（第二神明道路や国道2号の渋滞損失時間を約7割削減） 個性ある地域の形成（拠点開発プロジェクト、地域連帯プロジェクト、大規模イベント等を支援する） 他13項目に該当			
関係する地方公共団体等の意見 兵庫県が国土交通省に対し、「平成20年度国の予算編成に対する提案」において、神戸西バイパスの事業促進を要望。 神戸市が国土交通省に対し「平成20年度国家予算に対する要望」において、神戸西バイパスの有料道路方式による整備促進を要望。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 沿線地域は、人口、自動車台数ともに増加傾向にある。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得は、86%が完了しており、専用部5.6km、一般部4.4kmは供用済みである。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ルート上に埋蔵文化財が点在していた。また、オオタカの営巣が確認された。 今後は、早期に整備効果が発揮出来るように一般部を優先して整備をすすめていく予定で、地元関係機関と調整を図りながら早期供用を目指し、概ね5年以内に一般部の暫定供用に向け事業を推進する。			
施設の構造や工法の変更等 施工にあたっては、周辺環境の保全とともに、新技術の積極的な活用、建設発生土の有効活用等、コスト縮減に努める。			
対応方針		事業継続	
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性・重要性は変わらないと考えられる。			

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名	地域高規格道路 一般国道2号 神戸西バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：兵庫県神戸市垂水区名谷町 至：兵庫県明石市大久保町	延長			専用部：12.5km 一般部：8.4km

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。